

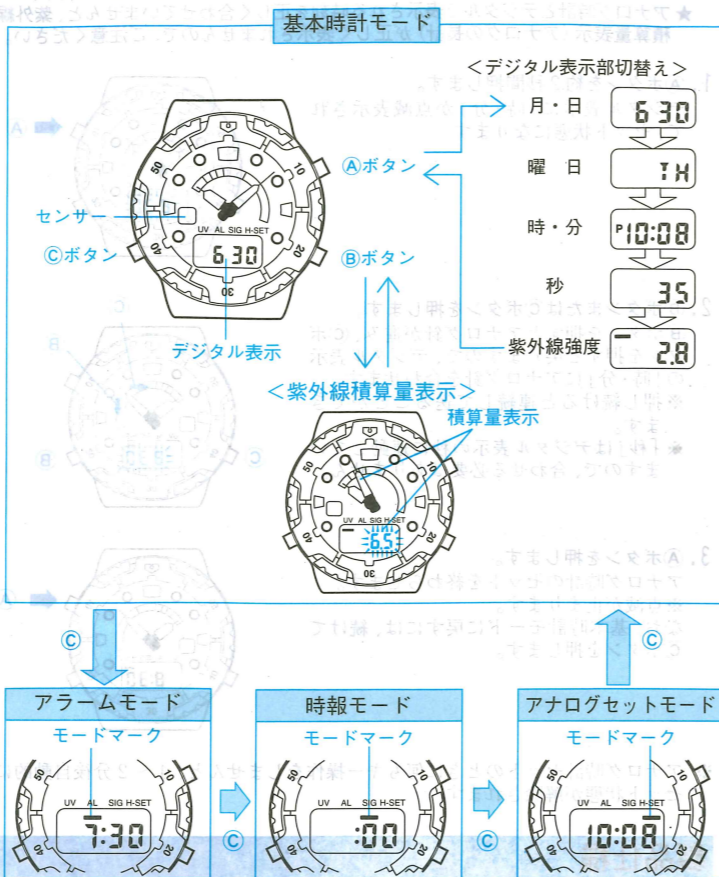
本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。  
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。  
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。  
あらかじめご了承ください。

このたびは弊社製品をお買い上げくださり誠にありがとうございます。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いください。なお、この取扱説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。時計のお取り扱いで、万一誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることはありません。この時計の特長、機能を十分使いこなすためにもご納得のゆくまでお試しください。

操作のしくみ

各ボタンを押すごとに以下のようにデジタル表示と機能が切り替ります。表示内容や使い方については各機能の項目をご覧ください。

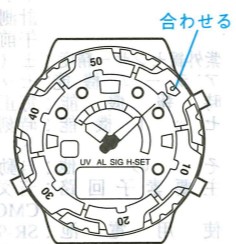


回転ベゼルの使い方

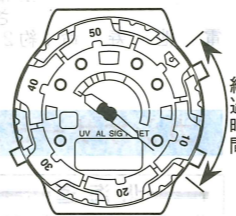
回転ベゼルの付いているものは、☉マークを使って、経過時間または残り時間がわかります。  
★ 回転ベゼルは左回り(逆時計回り)にしか回しません。無理に右回転をさせますと故障の原因となりますので、絶対におやめください。

経過時間の見方

1. あらかじめ分針に☉マークを合わせておきます。

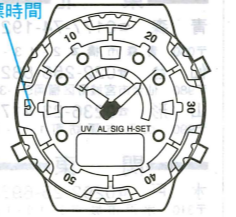


2. 長針の進んだ位置を見て、回転ベゼル上の数字が経過時間(分)です。

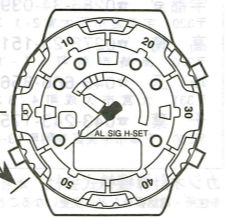


残り時間の見方

1. あらかじめ目標時間(分)位置に回転ベゼルの☉マークを合わせておきます。



2. 長針が☉マークに進んだときが目的時間で、それまでの☉マークと長針のあいだが残りの時間となります。



紫外線計測機能の使い方

ご使用にあたっての注意

- 紫外線強度は、本機の太陽に対する角度により変化します。計測の際は本機のセンサー部を太陽に垂直に向けるようにしてください。特に、時間経過により太陽の位置が移動するときは、その都度センサー部を太陽の方向に向けてください。  
例) 海辺で日焼けをする場合: 太陽の方に本機を合わせる。  
スキー場では: 下からの照り返しが強いため、下に向けた方が正しく計れることがある。  
※ただし、本機は人工的な光源で使用するにはできておりません。
- ご使用前に下記事項を確認してください。  
● アナログ長針による積算量表示を正確にするために、デジタルの時刻とアナログの時刻が合っているか確認ください。  
もし、合っていないときは、本紙裏面の「アナログ針の合わせ方」をご覧ください。  
● 直射日光の当たっている場所で、センサー部を太陽に垂直に向けるようにして、3分以上の計測を行ない、紫外線強度が"0.4"以上に表示されることを確認ください。
- ご使用にあたり、次のことにご注意ください。  
● 紫外線の計測値は身体の各部により異なります。本機を手首にはめているときはセンサー部と同面の手首の部分にあたる紫外線を計測しています。  
● 特に、日に焼けやすいときは、本機が日陰にならないようにしてください。  
● スキンタイプは間違った認識をされる場合がありますので、該当すると思われるスキンタイプよりも下のスキンタイプ(スキンタイプIIIと思われるときはII)でご使用ください。  
● サンタンローションを使用している場合、スキンタイプの表記による日焼けの判断はできません。  
※日焼け止めクリーム/日焼け止め化粧品/日焼け止めローション等を使用しているときは、そのSPF値やメーカーにより下記スキンタイプの表記による日焼けの判断はできません。
- 以下の場合には、正しく計測ができないことがあります。  
● 水滴や砂などがセンサー上のガラス面に付いているとき。  
● ガラス面にキズがあるとき。
- 本機は薬事法に定める医療用具ではありません。

紫外線の計測値は本機をご使用になる状態等の要因により変化します。ご使用にあたってはあくまでも目安の値(日焼け、日焼け防止に対してのお客様のご判断の補助的なもの)としてご使用ください。

時刻修正のご注意

- 午前0時をこえる時刻修正を行ないますと、自動クリアが行なわれませんので、ご注意ください。  
例) 午後11時58分に時刻修正を行ない、午前0時05分にする。
- 積算量は、午前0時から3分おきに計測していますので、途中で時刻修正を行ないますと正確な積算量が表示されることがあります。

アラーム・時報の電子ブザーが鳴ったときは

- アナログ長針による積算量表示は、一時的に停止しますが、鳴り終わった後に再び動き始めます。

スキンタイプ

スキンタイプは下記表を参考にしてください。

タイプ	内容	限界積算量
I	・日焼けによる炎症がおこりやすい。 ・決して日焼けで黒くならない。 ・とても色白の肌。	3.50 J/cm <sup>2</sup>
II	・日焼けによる炎症がおこりやすい。 ・肌は軽く日焼けする。 ・色白の肌。	5.25 J/cm <sup>2</sup>
III	・日焼けによる炎症はあまりおきない。 ・肌は段々小麦色になっていく。 ・うすすら小麦色の肌。	7.00 J/cm <sup>2</sup>
IV	・日焼けによる炎症は少ない。 ・よく日焼けし、肌は黒くなる。 ・黄色、薄茶色の肌。	8.75 J/cm <sup>2</sup>
V	・日焼けによる炎症はほとんど無い。 ・すぐ日焼けし、黒くなる。 ・茶色っぽい肌。	14.00 J/cm <sup>2</sup>
VI	・日焼けによる炎症はまったくおきない。 ・常に日焼けしている肌。 ・茶色、黒の肌。	28.00 J/cm <sup>2</sup>

● 限界積算量は、各タイプの人が素肌のままで紫外線を浴びた場合に日焼けの炎症が認められる積算量で、J/cm<sup>2</sup>(ジュール/平方センチメートル)単位であらわします。

※日焼けの炎症とは、肌をヒリヒリと真赤にさせるもので、後になってシミ、ソバカス、シワ、たるみなどの原因となります。

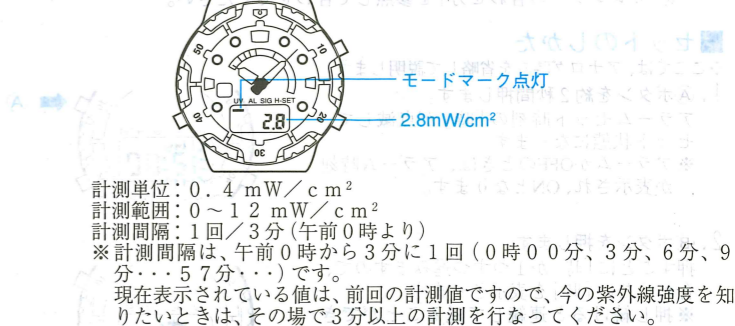
● 日本人はIIIまたはIVのタイプがほとんどですが、個人差がありますので、各個人のタイプに合わせてご使用ください。  
※スキンタイプIIIまたはIVの方は、IIまたはIIIでご使用ください。

〈スキンタイプの変化〉

日々の日焼けにより肌の色は変化しますが、スキンタイプは変化しません。日焼けの肌の色にかかわらず、スキンタイプは常に同じタイプでご使用ください。

紫外線強度の見方

紫外線強度は、操作のしくみにしたがって、基本時刻モードで(A)ボタンを押して表示させます。このとき表示される値は、表示を切り換えたときの計測値で、mW/cm<sup>2</sup>(ミリワット/平方センチメートル)の単位で表示します。  
表示例)

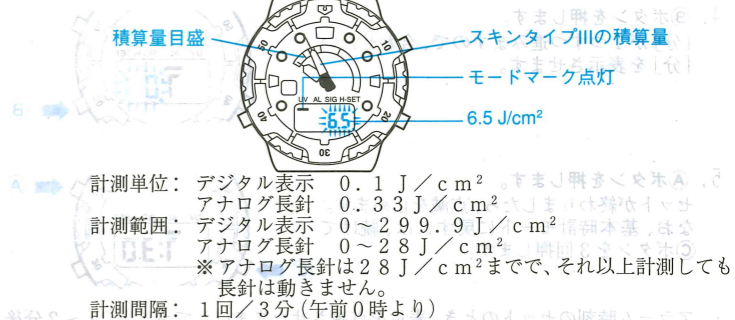


〈紫外線強度とは〉

紫外線強度とは、単位面積(1cm<sup>2</sup>)に照射する単位時間(1秒間)あたりのエネルギーです。紫外線強度は数字が大きいくほど紫外線が強いということですが、数字だけでなく紫外線の傾向を常にとらえるようにしてください。

紫外線積算量の見方

紫外線積算量は、操作のしくみにしたがって、基本時刻モードで(B)ボタンを押すと表示されます。このとき表示される積算量は午前0時から現在までの積算量を表示します。デジタル表示は、J/cm<sup>2</sup>(ジュール/平方センチメートル)の単位で表示し、アナログ時計の長針(分針)はどのスキンタイプに該当する積算量かを表示します。  
表示例)

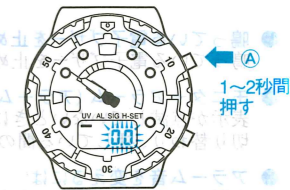


〈紫外線積算量とは〉

紫外線積算量とは、単位時間に照射する紫外線のエネルギー量の事で、どの位紫外線を浴びたかを計ります。  
・紫外線積算量表示のまま50~60秒間ボタン操作をさせないと、自動的に紫外線積算量表示が解除されます。

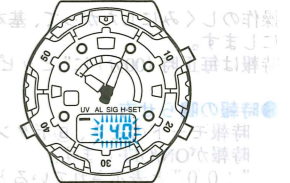
紫外線積算量のクリアー

- 自動クリアー: 午前0時になるとそれまでの積算量を0にして、新たな積算計測をはじめます。
- 強制クリアー: 積算量を表示中に、(A)ボタンを1~2秒間押し続けるとビップと鳴り、それまでの積算量を0にして、新たな積算計測をはじめます。  
※外出するときや日光浴のときだけの積算量を計算したいときに行ないます。



日焼けのミニ知識

- 日焼けは、「肌のタイプ」、「オイルやクリームなどの塗り方」、「体調」、「食べた物」、「気温」などにより異なります。
- 日焼け防止化粧品等のSPF値により、限界積算量のSPF値倍日焼け防止ができます。  
例) スキンタイプIIIの人が<SPF2>の化粧品を使用した場合。  
スキンタイプIIIの限界積算量=7(J/cm<sup>2</sup>)  
よって 7×2=14(J/cm<sup>2</sup>)  
となります。



SPF値と紫外線積算量の対応表

SPF値	スキンタイプ	I	II	III	IV	V	VI
素肌		3.50	5.25	7.00	8.75	14.00	28.00
2		7.00	10.50	14.00	17.50	28.00	58.00
6		21.00	31.50	42.00	52.50	84.00	168.00
12		42.00	63.00	84.00	105.00	168.00	336.00
20		70.00	105.00	140.00	175.00	280.00	560.00
30		105.00	157.50	210.00	262.50	420.00	840.00

※この表以外のSPF値の場合は、上記計算により求めてください。  
※□部分は、本機では全て299.9と表示されます。

## 時刻アラームの使い方

操作のしくみにしたがって、基本時計モードから**Ⓐ**ボタンを1回押し、アラームモードにします。  
アラームは、分単位で時・分がセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子ブザーで知らせてくれます。

★時刻アラーム・時報はデジタル表示の時刻に連動して鳴ります。  
もし、デジタル表示の時刻とアナログ表示の時刻が合っていないときは、「時刻・カレンダーの合わせ方」を参照して合わせてください。

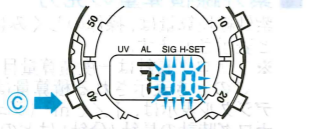
### セットのしかた

※ここでは、アナログ時計を省略して説明します。

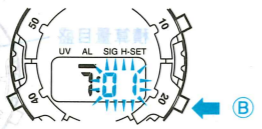
- Ⓐ**ボタンを約2秒間押します。  
アラームセット時刻の「時」が点滅して、セット状態になります。  
※アラームがOFFのときは、アラーム時刻が表示され、ONとなります。
- Ⓑ**ボタンを押します。  
押すごとに「時」が1つずつ進みますので、合わせたい「時」を表示させます。  
※押し続けると連続して送ることができます。  
※「時」のセットのとき午前/午後にご注意ください。  
※時刻表示を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示になります。



- Ⓒ**ボタンを押します。  
「時」のセットが完了したら、「分」を点滅させます。



- Ⓑ**ボタンを押します。  
「分」が1つずつ進みますので、合わせたい「分」を表示させます。

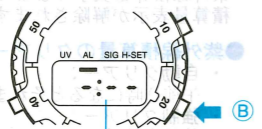


- Ⓐ**ボタンを押します。  
セットが完了したら、点滅を止めます。  
なお、基本時計モードに戻すには、続けて**Ⓒ**ボタンを3回押します。



- アラーム時刻のセットのとき、表示を点滅させたままにしておくと、1～2分後自動的に点滅が止まります。
- アラームモードで何も操作をしなければ、1～2分後自動的に基本時計モードに戻ります。

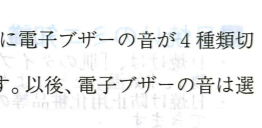
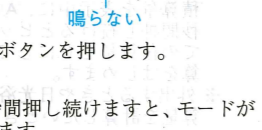
- アラームを鳴らすには**  
アラームモードのとき、**Ⓑ**ボタンを押すごとにアラーム時刻が表示/非表示します。アラーム時刻が表示されているときにアラームが鳴ります。



- 鳴っている電子ブザーを止めるには**  
鳴っている電子ブザーを止めるには、いずれかのボタンを押します。

- モニターアラーム(アラーム音の試し聞き)**  
表示が点滅していないときに**Ⓒ**ボタンを1～2秒間押し続けると、モードが切り替わり、押し続けている間のみ電子ブザーが鳴ります。

- アラーム音を変えるには**  
上記モニターアラームのとき**Ⓑ**ボタンを押すごとに電子ブザーの音が4種類切り替わります。  
好きな音を選びになったら、**Ⓑ**ボタンを離します。以後、電子ブザーの音は選んだ音で鳴ります。



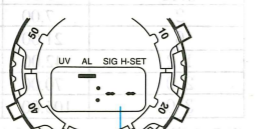
## 時報の使い方

操作のしくみにしたがって、基本時計モードから**Ⓒ**ボタンを2回押し、時報モードにします。  
時報は毎正時(00分)に”ピピッ”と知らせてくれます。

- 時報の鳴らせ方**  
時報モードのとき、**Ⓑ**ボタンを押すごとに時報がON/OFFします。  
”：00”と表示されているときに時報は鳴ります。



IV	V	VI	III	II
00:00	00:01	00:02	00:03	00:04
00:05	00:06	00:07	00:08	00:09
00:10	00:11	00:12	00:13	00:14
00:15	00:16	00:17	00:18	00:19
00:20	00:21	00:22	00:23	00:24
00:25	00:26	00:27	00:28	00:29
00:30	00:31	00:32	00:33	00:34
00:35	00:36	00:37	00:38	00:39
00:40	00:41	00:42	00:43	00:44
00:45	00:46	00:47	00:48	00:49
00:50	00:51	00:52	00:53	00:54
00:55	00:56	00:57	00:58	00:59



鳴らない(OFF)

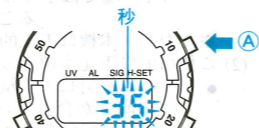
## デジタル時刻・カレンダーの合わせ方

アナログ時計の時刻とデジタル表示の時刻を同時に合わせるときは、先にデジタル表示の時刻を合わせてから、アナログ時計の時刻を合わせてください。  
デジタル表示の時刻は基本時計モードで行ないます。  
※ここではアナログ時計を省略して説明します。

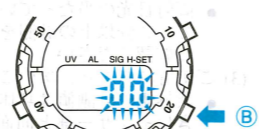
### 秒の合わせ方…30秒以内の遅れ進みの修正

月に一度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時刻はいつも正確です。

- Ⓐ**ボタンを約2秒間押します。  
「秒」が点滅してセット状態になります。



- 時報に合わせて**Ⓑ**ボタンを押します。  
秒が00秒からスタートします。



秒が00秒～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは1分くりあがって、00秒からスタートします。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

- Ⓐ**ボタンを押します。  
秒合わせを終わらせます。  
※秒合わせを行なう前の表示になります。



例：カレンダー表示

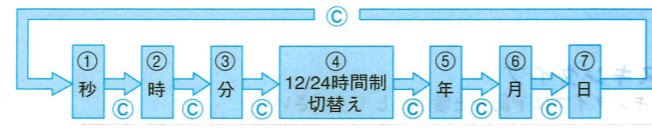
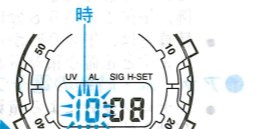
### 時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻・カレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

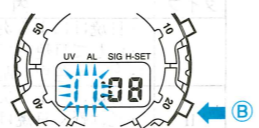
- Ⓐ**ボタンを約2秒間押します。  
「秒」が点滅してセット状態になります。



- Ⓒ**ボタンを押します。  
押すごとに以下の順で点滅箇所が移動します。点滅箇所がセット可能ですので、セットしたい箇所を点滅させます。



- Ⓑ**ボタンを押します。  
押すごとに表示が1つずつ増えますので、セットしたい数字を表示させます。  
※押し続けると連続して送ることができます。



Ⓒボタンでセットしたい箇所を選び、Ⓑボタンで表示をセットする操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。12/24時間制表示切り替えは、**Ⓑ**ボタンを押すごとに12時間制表示と24時間制表示が切り替わります。  
注)「時」のセットのとき午前/午後(P)、24時間制にご注意ください。

- Ⓐ**ボタンを押します。  
セットを終わらせます。



例：時刻表示

- ※時刻・カレンダー合わせを行なう前の表示になります。
- ※時刻・カレンダーセットのときに何もキー操作をしなければ、1～2分後自動的に点滅が止まります。
- ※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

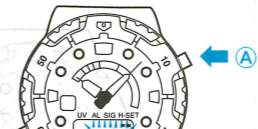
〈ご注意〉  
本機のアナログ時計とデジタル表示はそれぞれ独立していますので、アナログ部の時刻とデジタル部の時刻やカレンダー送りが多少ずれることがあります。このようなときは正しい時刻を確認の上、アナログ時計とデジタル表示の時刻を合せてください。

## アナログ時計の合わせ方

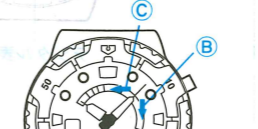
操作のしくみにしたがって、基本時計モードから**Ⓒ**ボタンを3回押し、アナログセットモードにします。

★アナログ時計とデジタルで表示される時刻を正しく合わせていませんと、紫外線積算量表示(アナログの長針)が正しく表示されませんので、ご注意ください。

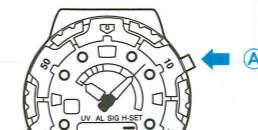
- Ⓐ**ボタンを約2秒間押します。  
デジタル表示に「時・分」が点滅表示され、セット状態になります。



- Ⓑ**ボタンまたは**Ⓒ**ボタンを押します。  
**Ⓑ**ボタンを押すとアナログ針が進み、**Ⓒ**ボタンを押すと戻りますので、デジタル表示の「時・分」にアナログ針を合わせます。  
※押し続けると連続して送ることができます。  
※「秒」はデジタル表示の秒に連動していますので、合わせる必要はありません。



- Ⓐ**ボタンを押します。  
アナログ時計のセットを終わらせます。  
※点滅が止まります。  
なお、基本時計モードに戻すには、続けて**Ⓒ**ボタンを押します。



※アナログ時計セットのときに何もキー操作をしなければ、1～2分後自動的にセット状態が解除されます。

## 製品仕様

水晶発信周波数: 32,768 Hz  
常温携帯精度: 平均月差±20秒以内  
基本機能: デジタル部 時刻表示=時・分・秒・午前/午後(P)/24時間制表示  
カレンダー表示=月・日・曜日 フルオートカレンダー

アナログ部 2針(時・分)  
紫外線強度計測: 計測単位=0.4mW/cm<sup>2</sup> 計測範囲=0～12mW/cm<sup>2</sup>  
計測間隔=午前0時より3分間隔

紫外線積算量計測: デジタル 計測単位=0.1J/cm<sup>2</sup> 計測範囲=0～299.9J/cm<sup>2</sup>  
アナログ 計測単位=0.33J/cm<sup>2</sup> 計測範囲=0～28/cm<sup>2</sup>  
計測間隔=午前0時より3分間隔  
午前0時の自動クリア機能付

紫外線センサー精度: ±(5%+1.2)mW/cm<sup>2</sup>  
アラーム機能: セット単位=分 電子ブザー=20秒間

時報機能: 毎正時に2回電子ブザーで報時  
セット機能: 時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ(±30秒アジャスト)、モニターアラーム

その他: 自動復帰機能、モニターアラーム、12/24時間制表示切替  
主要素子回路: 音叉型高性能水晶振動子、紫外線センサー、ワンチップCMOS-LSI

使用電池: SR-927W  
※電池はカシオ製電池またはカシオ指定電池をお使いください。

電池寿命: 約2年 (1日あたり電子ブザーを20秒間、紫外線計測を1回/3分使用した場合)

## ご使用上の注意

防水性	● 裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。	BAR無し	5 BAR	10BAR	20BAR	30BAR
洗顔、雨		○	○	○	○	○
水仕事、水泳		×	○	○	○	○
ウインドサーフィン		×	×	○	○	○
スキューバダイビング(素潜り)		×	×	○	○	○

※ 専門的な潜水スキューバダイビング(アクアラング)でのご使用はお避けください。  
● 裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。  
防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発生する場合、もしくは湿気の多い場所での使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。

● 防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。  
● 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。  
● 防水性を保つために定期的(2～3年を目安に)なバックシン交換をおすすめします。  
● 電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。(特殊な器具を必要とします)  
● 防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態では、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

● 防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態では、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。  
● バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。  
● 樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにバンド交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

● 樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単に拭き取ることができます。  
● 自動車のダッシュボード等の高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ・進みが生じたり、止まったりすることがあります。  
● 長時間炎天下でのご使用になる場合、時計本体が高温になるのを避けるため、直接砂の上等に置くことは避けてください。  
● +60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

● 通常の使用状態でのショックや軽い運動(キャッチボール、テニスなど)には十分耐えますが、落としたり、強くぶついたりすると故障の原因になります。  
● 家庭用電機製品(テレビなど)程度の磁気には影響しないように耐磁構造をとっておりますが、強い磁気を発生する器具に近づけると一時的に遅れ・進みが生じることがあります。  
● 水銀や化学薬品(シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれら含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類)が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

● 長期ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

### お手入れについて

**お手入れのしかた**  
● 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは、吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。  
● 金属バンドは、時々、部分洗いをすることをおすすめします。部分洗いの際は、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

**お手入れを怠ると**  
● 「サビ」  
● ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。  
※ 汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。  
● 表面はきれいでも、すまみに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。

● 「かぶれ」  
● 皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。  
● 特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。  
● 万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

### 蛍光商品のお取り扱いについて

● 蛍光商品のケース/バンドをしようしているものは、以下の点にご注意ください。  
● 長時間、直射日光に当てると、色あせする場合があります。  
● 長時間、濡れたままにしておくとも色が落ちる恐れがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって乾かしてください。  
● 長時間、他の商品と密着させたり、濡れたまま他の商品と一緒にしておくと、他の商品に色が移行することがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、密着保存を避けてください。  
● プリントがしている場合は、プリンと部分を強くこすると他の部分に色がうつることがあります。

### 電池交換について

**最初の電池**  
● 工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。  
※ モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。  
※ 電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

**消耗**  
● 電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消費したり」します。  
● 消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。  
**電池交換**  
● 電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。  
● 電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。  
● 電池交換の際、防水検査を行ないます。(防水検査は別途有料となります)

### 液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。